

精神専門

問 題

◎ 指示があるまで開かないでください。

一般社団法人 日本社会福祉士養成校協会

一般社団法人 日本精神保健福祉士養成校協会

平成27年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験

(専門科目)

注 意 事 項

1 試験時間等

専門科目の試験問題数は80問で、解答時間は2時間20分です。

2 受験番号等の記入方法

はじめに、解答用紙に学校名、氏名を記入してください。次に、右側の一番上の欄に受験番号を記入し、その下のマークシートの欄には、受験番号の英字及び数字に対応する○を、次表の例にならって塗りつぶしてください。

(例) 受験番号 A 0 1 2 - 3 4 5 6 H の場合

平成27年度
社会福祉士 全国統一模擬試験
精神保健福祉士
(精神専門) 解答用紙

学校名	精 養 協 大 学
氏 名	精 養 協 子

受 験 番 号	A	0	1	2	-	3	4	5	6	H
	●	●	○	○		○	○	○	○	Ⓐ
	Ⓑ	①	●	①		①	①	①	①	Ⓑ
	Ⓒ	②	②	●		②	②	②	②	Ⓒ
	Ⓓ	③	③	③		●	③	③	③	Ⓓ
	Ⓔ	④	④	④		④	●	④	④	Ⓔ
	Ⓕ	⑤	⑤	⑤		⑤	⑤	●	⑤	Ⓕ
	Ⓖ	⑥	⑥	⑥		⑥	⑥	⑥	●	Ⓖ
	Ⓗ	⑦	⑦	⑦		⑦	⑦	⑦	⑦	●
	Ⓘ	⑧	⑧	⑧		⑧	⑧	⑧	⑧	Ⓘ
	Ⓚ	⑨	⑨	⑨		⑨	⑨	⑨	⑨	Ⓚ

(注意) この場合、0も必ず塗りつぶしてください。

3 解答方法

- (1) 出題形式は五肢択一を基本とする多肢選択形式となっています。各問題には1から5まで5つの答えがありますので、そのうち、問題に対応した答えを〔例1〕では1つ、〔例2〕では2つを選び、解答用紙に解答してください。

〔例1〕 問題 201 次のうち、県庁所在地として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 函館市
- 2 郡山市
- 3 横浜市
- 4 米子市
- 5 北九州市

正答は「3」ですので、解答用紙の

問題 201 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、③ を塗りつぶして、

問題 201 ① ② ● ④ ⑤ としてください。

〔例2〕 問題 202 次のうち、首都として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 シドニー
- 2 ブエノスアイレス
- 3 上海
- 4 ニューヨーク
- 5 パリ

正答は「2と5」ですので、解答用紙の

問題 202 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、② ⑤ を塗りつぶして、

問題 202 ① ● ③ ④ ● としてください。

- (2) 採点は、光学式読取装置によって行います。解答は、鉛筆を使用し、○の外にはみださないように濃く塗りつぶしてください。なお、シャープペンシルは問題ありませんが、ボールペンは使用できません。

良い解答の例…………●

悪い解答の例………… (解答したことになりません)

- (3) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。鉛筆の跡が残ったり、 のような消し方などをした場合は、訂正したことになりませんので注意してください。
- (4) 〔例1〕の問題に2つ以上解答した場合は、誤りになります。〔例2〕の問題に1つ又は3つ以上解答した場合は、誤りになります。
- (5) 解答用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないよう特に注意してください。

4 その他の注意事項

- (1) 印刷不良や落丁があった場合は、手を挙げて試験監督員に連絡してください。
- (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。
- (3) 試験終了後、この試験問題はお持ち帰りください。
- (4) この試験問題は、複製、譲渡、電子記録媒体への記録・転載等を固く禁じます。

精神疾患とその治療

問題 84 次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 外因性精神障害とは、虐待や災害被害など極度のストレスが外部からかかったことにより発生するものを指し、PTSDのほかパニック障害や睡眠障害もこれに該当する。
- 2 DSM-5はアメリカ精神医学会により作成された診断分類で、多軸診断が用いられている。
- 3 ICD-10はWHOにより作成された疾病分類であり、世界中で用いられている。
- 4 内因性精神障害とは、外傷等で脳内に過度の力が加わり損傷した結果起こる精神障害で、せん妄等の症状がある。
- 5 心因性精神障害とは、統合失調症など心の病一般を指す言葉である。

問題 85 次の症状と精神疾患の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 せん妄————統合失調症
- 2 保続————不安障害
- 3 失声————解離性障害
- 4 減裂思考————躁病（双極性障害）
- 5 遁走————注意欠如・多動症（注意欠如・多動性障害）

問題 86 統合失調症に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 統合失調症では、倫理や規範に背いたとして自分を責める内容の罪責妄想（罪業妄想）がみられやすい。
- 2 統合失調症の幻覚では、幻視よりも幻聴（幻声）のほうが一般的であり、なかでも「対話する形の幻聴」は代表的である。
- 3 統合失調症では、急性期に意識障害の一つとして、振戦せん妄がみられやすい。
- 4 統合失調症では、急性期に意識障害の一つとして、昏迷がみられやすい。
- 5 統合失調症では、幻聴によって思考が先に進まなくなることがあり、これを思考制止という。

問題 87 心理的検査法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 質問紙法による性格検査には、回答者が気づいていない潜在的な欲求や問題解決傾向がわかる利点がある。
- 2 文章完成検査（SCT）は不完全な文章に続く言葉を補って、意味の通る文章にする質問紙法の一つである。
- 3 P-Fスタディは欲求不満場面の図版の人物に言葉を補って、意味をもつ状況にする投影法の一つである。
- 4 風景構成法は山や川といった図版を提示して、そこから連想される内容を尋ねる投影法の一つである。
- 5 投影法による性格検査では回答者が自分をよく見せたり、同情を引こうとしたりする偏りを生じやすい。

問題 88 認知症を来す病態と原因に関する次の組み合わせのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 一酸化炭素中毒—————大脳皮質障害
- 2 ハンチントン病—————大脳基底核障害
- 3 レビー小体型認知症————大脳白質障害
- 4 進行性核上性麻痺—————感染症
- 5 正常圧水頭症—————プリオン

問題 89 アルコール依存症に関する次の組み合わせのうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 離脱症状—————精神依存
- 2 小動物幻視—————アルコール幻覚症
- 3 失語—————ウェルニッケ脳症
- 4 作話—————コルサコフ症候群
- 5 交叉耐性—————ベンゾジアゼピン

問題 90 うつ病（大うつ病性障害）に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 うつ病は、女性よりも男性に多くみられる精神疾患である。
- 2 うつ病は、心因性の精神疾患であり、その治療法の一つに精神療法があげられる。
- 3 DSM-5におけるうつ病の診断では、抑うつ気分の存在が必須である。
- 4 うつ病では、著しい体重減少や早朝覚醒がみられやすい。
- 5 うつ病の治療では、認知療法が第一選択であり、次に薬物療法を考える。

問題 91 薬物療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 抗精神病薬は、ドーパミンによる神経伝達を促進する。
- 2 抗うつ薬は抑うつ気分の症状が改善したらただちに服薬を終了する。
- 3 抗不安薬の副作用としてパーキンソン症状・悪性症候群・遅発性ジスキネジアなどがある。
- 4 知的障害では、中枢神経刺激薬（メチルフェニデート）が有効なことがある。
- 5 炭酸リチウムは治療濃度と中毒濃度が近接しているため、定期的に採血して血中濃度を測定しながら使用していき、腎機能障害や甲状腺機能低下などの副作用が生じていないか注意する必要がある。

問題 92 精神療法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 認知療法は、うつ病の治療法の一つであり、マイナス思考にはたらきかけ、合理的な状況の受け止め方に導く治療法である。
- 2 支持的精神療法は、患者の苦悩や行動を一切否定せず、いずれも積極的に支持することにより、患者の自尊心を回復させる治療法である。
- 3 力動精神療法（精神分析的な精神療法）は、急性期を経過したのちの統合失調症に有効な治療法である。
- 4 森田療法は、力動精神療法の一つであり、自由連想法を用いて対象への過度のとりわれを解消する治療法である。
- 5 集団療法は、アルコール依存症の治療の一つとして有効であり、現在の我が国でも広く行われている治療法である。

問題 93 精神科治療における人権擁護に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神医療審査会は医療委員2名以上、法律家委員1名以上、当事者代表委員1名以上で構成され、精神保健福祉センターで事務が行われる。
- 2 インフォームドコンセントは当事者に判断能力がない場合でも同意署名があれば成立するので、速やかに同意署名を得るよう努めることが精神保健福祉士に求められる。
- 3 隔離の対象には「身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため」必要な場合も含まれる。
- 4 「自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」は身近に拘束に用いる紐^{ひも}があると危険なので身体的拘束を行ってはならない。
- 5 行動制限最小化委員会は各都道府県の精神保健福祉センターに設けられ、精神科病院の行動制限実施状況を管理監督する。

精神保健の課題と支援

問題 94 2012年（平成24年）8月に見直しが行われた自殺総合対策大綱に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」ために、国と地方公共団体は、自殺対策の取組みに緊密に連携を取り、協力することが明記された。
- 2 ゲートキーパーは原則的に誰でもなることができるが、医師、看護師、保健師、精神保健福祉士である者以外は、ゲートキーパー養成研修会を受講することが義務づけられた。
- 3 子どもから高齢者まで支援を必要としている誰もが容易に均一な支援を受けることができるように、インターネットによる自殺関連情報を提供できるよう推進する。
- 4 自殺企図の再発防止対策強化として、新たに自殺未遂者に対する自殺対策と的確な支援が明記され、救急医療施設に精神科医の診療体制の整備を図ることになった。
- 5 養護教諭には、児童や生徒に対して命の大切さを実感できる教育、生活上の困難やストレス場面に直面した際に対処できるようにストレスマネジメントを教えることが規定された。

問題 95 「厚生労働省の調査」における高齢者虐待の現状に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 家族など養護者による高齢者虐待の相談・通報者の内訳をみると、介護支援専門員が最も多い。
- 2 養介護施設従事者等による高齢者虐待の相談・通報者の内訳をみると、家族・親族が最も多い。
- 3 養介護施設従事者等による高齢者虐待の種別で最も多いのは、心理的虐待である。
- 4 家族など養護者による高齢者虐待の種別で最も多いのは、心理的虐待である。
- 5 家族など養護者による高齢者虐待で、虐待を行った者として最も多い続柄は夫である。

(注) 「厚生労働省の調査」とは、「平成25年度高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」のことである。

問題 96 「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」に示されている5つのステップに関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 第1ステップとは、労働者が精神的不調を訴え始めた時期のことである。
- 2 第2ステップとは、病気休業開始及び休業中のケアのことである。
- 3 第3ステップでは、職場復帰の可否の判断及び職場復帰支援プランの作成をする。
- 4 第4ステップでは、職場適応援助者（ジョブコーチ）による支援が開始される。
- 5 第5ステップでは、職場復帰後のフォローアップを行う。

(注) 「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」とは、厚生労働省により2012年（平成24年）7月に改訂・公表されたものである。

問題 97 我が国の自殺及び自殺対策に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「自殺総合対策大綱」による自殺対策の数値目標として、自殺死亡者の実数が2万人より少なくなることを掲げている。
- 2 2014年（平成26年）中における自殺者の原因・動機が明らかなもののうち、その原因・動機が「経済・生活問題」にあるものが最も多い。
- 3 「自殺総合対策大綱」において政策対象となる集団ごとの実態を踏まえた対策を推進するとして、自殺者数の多い若年層と高齢者層の二つの対象について取り上げられている。
- 4 「自殺総合対策大綱」において個別的予防介入とは、過去に自殺未遂をした人など、自殺行動のリスクの高い個人を対象とする対策のことである。
- 5 2014年（平成26年）中における自殺者数の年齢階級別自殺者数では、40歳代が最も多い。

問題 98 いじめに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 文部科学省が推進するいじめ対策等総合推進事業においてスクールカウンセラーの配置拡充は行われたが、スクールソーシャルワーカーの配置拡充は見送られた。
- 2 平成25年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）によれば、いじめの態様は「冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句」といった言語的ないじめが、「叩かれたり、蹴られたりする」という身体的ないじめの約2倍で最も多い。
- 3 2013年（平成25年）に施行されたいじめ防止対策推進法における「学校」には、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校が含まれるが、特別支援学校は含まれない。
- 4 いじめ防止対策推進法では第13条で「学校いじめ防止基本方針」の策定を義務づけており、2014年（平成26年）10月1日の調査結果によれば、すべての学校が策定済みとなっている。
- 5 我が国では、2003年（平成15年）の性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律の制定により学校における性同一性障害に係る児童生徒への支援についての対応が求められるようになってきているが、いじめや自殺との関連については言及していない。

問題 99 「精神保健福祉資料（平成24年度）」による精神科病院在院患者の状況に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 F2（統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害）の診断による在院患者総数17万3417人のうち任意入院が約42%，医療保護入院が約56%となっている。
- 2 F3（気分（感情）障害）の診断による在院患者は総数で2万6008人だが，男性患者が1万6286人で女性患者9722人の約1.7倍となっている。
- 3 在院患者総数30万2156人の入院形態別にみると，医療保護入院による在院患者数が16万2808人と，任意入院在院患者数13万5740人を上回っている。
- 4 措置入院の形態による在院患者には20年以上の長期在院者は存在しない。
- 5 20年以上の在院となっている者は在院患者総数の1割を超える。

（注） 「精神保健福祉資料」とは，厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課が，毎年6月30日付で都道府県・政令指定都市に報告を依頼している調査のことである。

問題 100 「子どもの貧困対策法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「子どもの貧困対策法」は、貧困の状況にある18歳以下の子どもが健やかに育成される環境において教育を受ける機会が均等になるよう推進することを目的とした法律である。
- 2 国及び地方公共団体は、貧困の子どもに対する教育の支援、子どもと保護者に対する生活支援や経済的支援、保護者に対する就業支援を行うために必要な施策を行う。
- 3 子どもの貧困対策会議は、子どもの貧困対策を総合的に推進するための枠組みづくりとして厚生労働省に設置される機関で、厚生労働大臣が会長である。
- 4 都道府県や市町村には、子どもの貧困対策計画を策定することと、計画が変更された場合に遅滞なく公表することが義務づけられている。
- 5 厚生労働省には、2年に1回、子どもの貧困の状況、子どもの貧困対策の実施状況を公表することが義務づけられている。

(注) 「子どもの貧困対策法」とは、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」のことである。

問題 101 アルコール問題と薬物依存に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 アルコール健康障害対策基本法では、酒類の製造・販売を行う事業者の努力義務として、アルコール健康障害の発生，進行，再発防止に配慮するよう規定している。
- 2 近年では、覚せい剤取締法違反の検挙人員が急増している。
- 3 近年では、いわゆる危険ドラッグに関する検挙人員は、必ずしも増加したとはいえない。
- 4 睡眠薬や抗不安薬は、医療機関から処方されたものであれば、依存や乱用になることはない。
- 5 ダルク（DARC）は、薬物依存症からの回復を支援するリハビリテーション施設である。

問題 102 精神保健に関連する民間団体やその活動に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「全国精神保健福祉会（みんなねっと）」は、2007年（平成19年）に結成された精神障害当事者の自助活動を行う全国組織である。
- 2 「元気回復行動プラン（WRAP）」は、精神障害当事者の自助活動として始められた。
- 3 「いのちの電話」は、自死遺族支援のために始められた。
- 4 「アルコールリクス・アノニマス（AA）」は、アルコール依存症患者の家族の自助活動である。
- 5 「えじそんくらぶ」は、自閉症当事者と家族の支援を行っている。

問題 103 WHO（世界保健機関）の活動に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 メンタルヘルスアクションプラン2013－2020は、高所得国の人を対象にしたプランで、2020年までに達成すべきメンタルヘルスの目標や指標が設定されている。
- 2 精神保健の格差に関する行動プログラム（mhGAP）は、全世界の人を対象にしたプログラムで、科学的及び疫学的な根拠に基づいた包括的な精神保健介入のパッケージが提示されている。
- 3 mhGAP介入ガイドは、精神保健の専門家を対象としたもので、精神疾患ごとにアセスメントや介入方法が明示されている。
- 4 認知症に関するWHOの報告書によると、世界の認知症人口は高所得国において増加し、現状の対策のままだと、2050年には国連が推定する世界人口約91億人のうち、認知症の発症数は1億人を超える。
- 5 世界自殺レポートには、世界の優先課題として自殺の予防をあげており、その理由として、自殺は世界中の国々で起きており、特に低・中所得の国で起きていることが指摘されている。

精神保健福祉相談援助の基盤

問題 104 精神保健福祉士法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 2010年（平成22年）の改正では、「誠実義務」と「資質向上の責務」が追加された。
- 2 精神保健福祉士は、医師その他関係者等と連携し、主治医がいる場合は医師の指示のもとに支援を行う。
- 3 精神保健福祉士でなくなった場合は、業務に関して知り得た情報を開示してもよい。
- 4 日本精神保健福祉士協会は、精神保健福祉士が「秘密保持義務」に違反したときは、その登録を取り消し、又は期間を定めて精神保健福祉士の名称の使用停止を命じることができる。
- 5 社会福祉士と精神保健福祉士は、1997年（平成9年）に同時に国家資格化された。

問題 105 精神保健福祉士の役割や専門技術に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 医療機関等におけるチームの一員として、治療中の精神障害者に対する相談援助を行う役割を遂行するため、チームの輪を乱さないことを最優先に業務を行う必要がある。
- 2 長期在院患者を中心とした精神障害者の地域移行を支援するにあたり、有効な方法である包括型地域生活支援（ACT）を使えない状況下にあっても、他の手法を活用することにより、地域移行を支援することが可能である。
- 3 精神障害者は対人関係を苦手とすることが多いため、セルフヘルプグループなど精神障害者本人が行う活動を支援する際には、精神保健福祉士主導で進めていかなければならない。
- 4 就労支援において、精神保健福祉士はより自然な職場での人間関係を形成する支援（natural support；ナチュラルサポート）のために、職場ではなく、精神障害者本人にのみはたらきかける必要がある。
- 5 関連分野における精神保健福祉の多様化する課題に対して相談援助を行うに当たっては、自身が抱えている日常業務について余裕がある場合に行えばよい。

問題 106 日本精神保健福祉士協会倫理綱領に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 前文には国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) が2000年7月に採択したソーシャルワークの定義が記載されている。
- 2 精神保健福祉士は、自分の専門性に誇りをもたなくてはならないため、特に他の専門職から職種業務に関して受けた批判や評価を受け入れてはならない。
- 3 精神保健福祉士は、本務であるクライアントとのかかわりを優先しなければならないため、学生等の教育や実習指導について積極的に行う必要はない。
- 4 精神保健福祉士は、クライアントの人権を尊重し、所属機関等が業務の改善や向上が必要な際には、機関に対して適切・妥当な方法・手段によって、提言できるように努め、改善を図る。
- 5 クライアントを他機関に紹介する際、精神保健福祉士同士であれば個人情報や記録の提供についてクライアントと協議する必要はない。

問題 107 ソーシャルワークのグローバル定義（2014年7月採択）に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、理論に基づいた専門職であり学問である。
- 2 ソーシャルワークはソーシャルワークの理論、社会科学、人文学および地域・民族固有の知を基盤とすることが謳^{うた}われている。
- 3 ソーシャルワーク専門職の中核的な任務として、社会変革・社会開発・社会的結束の促進があげられ、人々のエンパワメントと解放については任務に含まれていない。
- 4 ソーシャルワークは人々と環境が相互に作用する接点に介入するものであるという考え方については、改訂前のIFSWの定義と同様である。
- 5 ソーシャルワークの中核となる原理は、人権尊重と社会正義、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）とノーマライゼーションである。

問題 108 相談援助の理念に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 ノーマライゼーションとは、「スティグマ化されている集団の構成メンバーであることに基づいて加えられた、否定的な評価によって引き起こされたパワーの欠如状態を減らすこと」を目指すものである。
- 2 ラップ（Rapp, C. A.）は、「問題より可能性を、強制ではなく選択を、病気よりもむしろ健康を見るようにする」という新たな認識を提供するとしたストレングスモデルを提唱した。
- 3 ニイリエ（Nirje, B.）はノーマライゼーションの原理を打ち立てたが、その対象は知的障害者に限られていた。
- 4 地域生活における自立とは、クライアント自らの自己決定に基づいて社会生活を営み、すべてのことを自分だけで行えることをいう。
- 5 ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）とは、社会から孤立・排除された人々を社会の構成員として受け入れ、問題解決を図ろうとする社会福祉の新しい理念である。

問題 109 相談援助における権利擁護に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 障害者の権利に関する条約について、我が国は現在も批准していない。
- 2 1991年に国連総会で採択された「精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケア改善のための諸原則」では、すべての精神病患者は可能な限り地域において生活し働く権利をもつとされている。
- 3 精神障害者が自己決定をする場合、精神保健福祉士にはそのプロセスを支援することが求められることもある。
- 4 成年後見制度利用支援事業は、2000年（平成12年）の民法改正に伴って導入された障害者の権利擁護のための制度である。
- 5 権利擁護において、ソーシャルワーカーはあくまでも中立的な立場に立って実践を行うべきである。

問題 110 事例を読んで、精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Aさん(50代、男性)は、20代で統合失調症を発症し、現在は精神科デイケア(以下、デイケア)を利用しながら、生活リズムを整え、就労支援事業所の利用を目指している。将来的には、一般就労を希望している。このことをAさんは仲のよいデイケアメンバーには話しているが、デイケアの担当のB精神保健福祉士には話することができていない。B精神保健福祉士はこの情報を他のメンバーから聞いて、Aさんの希望を初めて知った。

- 1 Aさんが就労移行支援事業所の利用を希望していることを他メンバーから聞いたことを伝え、自分の意見をはっきり言うことができなければ就職は難しいので、今は就職をあきらめるよう勧める。
- 2 面接を行ってもAさんからの希望を直接聴き取れなかったため、本当のニーズではないと判断する。
- 3 面接の際には、Aさん自ら話してもらえるような雰囲気づくりを心がけ、たとえば1回の面接で話してもらえなくても、Aさんのタイミングを待つようにする。
- 4 Aさんに、なぜ自分に相談できないのか、その理由を問い、今後はどのようなことも自分に相談するよう指示する。
- 5 Aさんの症状を把握するため、Aさんの意思を確認する面接の前に、主治医に相談をした。

問題 111 ソーシャルワークの理論に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 クレペリン (Kraepelin, E.) は、成育歴などからパーソナリティを分析し、その自我の強化によって環境適応力を向上させることを援助の目的とする精神分析論を提唱した。
- 2 パールマン (Perlman, H. H.) は、人が生きること、社会的に機能することは問題解決のプロセスであるとし、診断主義派と機能主義派の理論を取り入れたクライアント主体の問題解決アプローチを提起した。
- 3 ホリス (Hollis, F.) は、ソーシャルワークの取り扱う問題が個人的・内部的な要因と環境的・外部的要因から成り立っていることを強調した。
- 4 ジャーメイン (Germain, C. B.) は、問題を病理状態の反映としてではなく、他者、事物、場所、組織、思考、情報や価値などを含む生態系の要素間の相互作用の結果とする、医学モデルを定義した。
- 5 ロビンソン (Robinson, V.) は、ソーシャルワークの初期の段階でワーカーはクライアントとの関係を重視し、クライアントに自己表現の機会を提供し、クライアント自身が問題に直面していくことを重要視した。

問題 112 精神保健福祉にかかわる専門職に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会復帰調整官は、保護観察所に配置され、出所する人の出所後の地域での生活を支援する。
- 2 精神保健福祉業務は、都道府県の精神保健福祉センターの精神保健福祉士が中心に行っており、市町村には精神保健福祉士は配置されていない。
- 3 精神保健参与員とは、地方裁判所から任命された精神保健指定医である。
- 4 看護師には、精神科の専門的看護を行う精神看護専門看護師や精神科認定看護師がいる。
- 5 ハローワークには障害者専門の担当職員が配置されているが、精神障害者の就労をサポートするために特化した職員はまだ配置されていない。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題113から問題115までについて答えなさい。

〔事 例〕

Cさん(14歳, 男性)は, 中学2年生になってすぐに不登校となり, 家にひきこもる生活が6か月以上続いている。そのことで, 母親が, D精神保健福祉士のいる相談機関を訪れた。

しかし, 母親は, ひどく警戒している様子であった。家族や学校の担任以外にこのような相談を行うのが初めてということや, もとからの慎重な性格もあるのだろうと考え, D精神保健福祉士はまずはこの相談機関について, 「ここは, Cさんのような状態にある子どもたちやそのご家族を対象に支援している専門の相談機関です。この事業が始まった平成21年から6年ほど活動を行い, 多くの子どもたちの支援をしてきました。職員は, みんな精神保健福祉士や社会福祉士といった専門資格をもっています。私たち以外にも連絡協議会をつくって, 学校や行政機関, 医療機関などと連携をしているのですよ」と説明した。(問題113)

すると, 母親は安心した様子で状況を話し始めた。その話から次のことがわかった。Cさんはいじめがきっかけで登校を渋るようになったようだが, 本人は詳しい話をしてくれない。学校の担任に電話で相談したが話を聞いてくれず, すぐにスクールソーシャルワーカーを紹介された。そこで, 相談に行ったが, 「本人から十分話は聞いた。大丈夫だから放っておきなさい」の一点張りである。また母親自身が不安や自責の念で気持ちが落ち込んで眠れなくなったので, Cさんには伏せて精神科クリニックを受診したら, 「軽いうつ病」とのことで睡眠薬の処方を受けているのだという。(問題114)

D精神保健福祉士は, 数回の面接ののち, 母親に了解のうえで自宅を訪問するようになった。最初は, Cさんも警戒して会ってくれなかったが, 次第に会って話してくれるようになってきた。関係づくりができるなかで, Cさん自身が今の状況から抜け出したいと話すようになった。(問題115)

問題 113 次のうち、**D**精神保健福祉士が所属している相談機関として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ひきこもり地域支援センター
- 2 地域若者サポートステーション
- 3 地域活動支援センターⅠ型
- 4 発達障害者支援センター
- 5 精神保健福祉センター

問題 114 次の記述のうち、この時点での**D**精神保健福祉士の助言内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 スクールソーシャルワーカーの発言は問題なので、すぐに教育委員会に苦情を申し立てること。
- 2 担任には不登校の相談ではなく、それ以前の**C**さんの様子を知りたいということで訪ねること。
- 3 **C**さんのクラスの同級生に電話したり、下校時に話しかけたりするなどして情報を得ること。
- 4 父親に対応を任せて、母親は一切かかわらないようにすること。
- 5 日をあらためて、再度、来所してもらうこと。

問題 115 次の記述のうち、この時点での**D**精神保健福祉士の**C**さんに対する助言内容として最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 転校を検討するよう伝えた。
- 2 母親の病気のことを話し、一日も早く登校するよう伝えた。
- 3 精神科デイケアの情報を伝えた。
- 4 今の状況からどのように抜け出すか一緒に考えてみようと伝えた。
- 5 今の生活を変えるために**D**精神保健福祉士の所属している相談機関に来るよう伝えた。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題116から問題118までについて答えなさい。

〔事 例〕

Eさん(63歳、男性)は統合失調症のため、N市内のP精神科病院(以下、P病院)に約30年間入院していた。入院中、Eさんは作業療法のプログラムには参加せず、ベッドに横になって過ごすか、敷地内のベンチに腰をかけ、ぼーっと遠くを見て過ごすことが多かった。Eさんには自宅があり、2年前に母親が他界してからは空き家になっていた。交流のある親族もおらず、Eさんから「退院したい」という言葉が聞かれることはなかった。しかし、P病院の医師や看護師、G精神保健福祉士、地域活動支援センター(相談支援事業所併設)のF精神保健福祉士、障害福祉サービス事業者がともに退院に向けて支援を行い、Eさんは2か月前に自宅へ退院することができた。(問題116)

Eさんは退院後、日常生活自立支援事業と障害福祉サービスの居宅介護、宅配弁当などを利用しながら単身生活を送っている。Eさんが最も楽しみにしているのは、買い物で、F精神保健福祉士は、他の利用者宅を訪問するときや仕事への行き帰りなどに、Eさんがスーパーの袋を両手に抱えて歩く姿をよく見かけた。

退院して1か月ほど経った頃、Eさんのゴミの出し方について近隣住民から苦情が出た。Eさんに何度か注意したが改善されないため、訪問中だったヘルパーに対して近隣住民がどうにかしてほしいと言ってきたとのことで、ヘルパーからF精神保健福祉士に連絡が入った。(問題117)

また、Eさんは日付や時間についての認識が曖昧なため、通院日を間違えたり、居宅介護の時間帯にどこかへ出かけていたりすることがたびたびあった。また、薬を飲み過ぎることや飲み忘れることもよくあった。さらに、夏の暑い日に窓を閉め切って過ごしていることもあり、関係者からは、熱中症や適切な服薬管理ができていないことによる病状悪化を心配する声があがった。F精神保健福祉士はケア会議を実施するため、P病院や居宅介護事業所などの関係者と連絡を取った。また、場所はEさんから許可を得てEさんの自宅とし、本人にも同席を求めた。(問題118)

問題 116 次の記述のうち、**G**精神保健福祉士や**F**精神保健福祉士が**E**さんの退院に向けて行った支援について、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 退院するためには生活リズムを整えなければならないので、**G**精神保健福祉士は作業療法のプログラムに参加するよう**E**さんを説得した。
- 2 **G**精神保健福祉士は、**E**さんについて情報収集することを通して退院に消極的な理由を探り、**E**さんにはどのようなはたらきかけが必要なのかを関係者で話し合った。
- 3 **G**精神保健福祉士は、**E**さんが退院に意欲的になるには主治医の説得が効果的と考え、主治医に**E**さんを説得してほしいと依頼した。
- 4 **E**さんの自宅のガスや水道、電気が退院後すぐに使用できるように、**F**精神保健福祉士が手続きをした。
- 5 **E**さんが自宅で暮らすために必要と思われる家具や、使い勝手のよさそうな家電を**F**精神保健福祉士が選び、自宅で生活できる環境を整えた。

問題 117 次の記述のうち、この時点の**F**精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 適切にゴミを出すよう**E**さんを説得するため、ヘルパーとともに**E**さん宅を訪問した。
- 2 ゴミ出しの日に**F**精神保健福祉士自らが訪問することにし、ゴミ出しを代行した。
- 3 苦情を言っている近隣住民に会い、「**E**さんは約30年間精神科病院に入院していたため、今後もゴミの分別が適切にできるようになる可能性はない」と伝えた。
- 4 近隣住民が言っていた苦情の内容をヘルパーに確認するとともに、**E**さん自身の生活能力や認識を確認し、解決方法を検討した。
- 5 「適切にゴミが出せないからといって、**E**さんを責めるのは精神障害者に対する差別だ」と、苦情を言っている近隣住民を批判した。

問題 118 次の記述のうち、F精神保健福祉士がケア会議を実施した目的について、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 退院後の生活についてEさん自身から話を聴き、関係者がもつ情報を出し合うなかで、地域生活を継続していくための課題やストレングスを共有し、支援方法やサービス内容の改善を検討するために実施した。
- 2 Eさんが地域生活を継続していくうえで生じている多くの課題について、Eさんの問題点や身につけるべき生活能力を共有し、生活能力獲得のための指導方法を検討するために実施した。
- 3 Eさんが地域生活を継続していくためにはあまりに課題が多く、再入院が必要であることを関係者で共有するために実施した。
- 4 Eさんが地域生活を継続していくためにはあまりに課題が多く、自分が支援していくには荷が重いことを伝え、関係者に自分を励ましてもらうために実施した。
- 5 Eさんが地域生活を継続していくうえで生じている多くの課題について、Eさん自身が課題解決を図っていくことが重要であり、関係者はそれを見守る必要があることを共有するために実施した。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 119 次のうち、「精神保健福祉法」に規定されている精神障害者の定義として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある者
- 2 障害があるため、長期にわたり職業生活に相当の制限を受ける状態にある者
- 3 精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者
- 4 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者
- 5 統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 120 我が国における精神保健福祉関連の法制度の変遷に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 1919年（大正8年）の精神病院法制定により、精神病者監護法は廃止された。
- 2 1984年（昭和59年）に起きたライシャワー事件により、精神衛生法が精神保健法に改称・改正された。
- 3 1987年（昭和62年）の改正で精神保健法により、精神医療審査会制度が設けられた。
- 4 1995年（平成7年）の改正で「精神保健福祉法」により、人権擁護の観点から任意入院制度が新設された。
- 5 1999年（平成11年）の「精神保健福祉法」改正により、保護者制度が廃止された。

問題 121 精神科リハビリテーションの原則に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 リカバリーは、治癒（cure）を土台にする。
- 2 支援のなかで依存を増やすことは、結果的には当事者の自立につながる。
- 3 エンパワメントモデルでは、問題点と解決策を支援者が考える。
- 4 ラップ（Rapp, C. A.）とゴスチャ（Goscha, R. J.）は、ストレングスモデルの原則として、医師こそが支援過程の監督者であるとしている。
- 5 ウィング（Wing, J. K.）は、精神科リハビリテーションがアセスメントを必要とする理由の一つとして、残存する能力についてのみを発見するためとしている。

問題 122 デイケアに通い始めて半年を過ぎたMさん（30歳，男性）は，H精神保健福祉士に半年後くらいにアルバイトを始めたいという相談をした。Mさんは仕事をした経験は最長で半年ほどで，長続きせずアルバイトも数回変わっている。仕事そのものは真面目でマイペースにできるが，仕事を辞める理由は，工作中的服薬について同僚から聞かれて答えられなかったり，休憩時間のコミュニケーションがうまくできないことが苦痛になったということであった。

次の記述のうち，H精神保健福祉士がMさんに対して今の段階で提供する支援として，適切なものを1つ選りなさい。

- 1 服薬指導や服薬自己管理モジュールにより，服薬中の薬のことについて知識を得る。
- 2 答えにくいことを聞かれたときの対応の仕方をSST（社会生活技能訓練）で練習する。
- 3 就労継続支援B型を利用し，就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。
- 4 ハローワーク（公共職業安定所）に登録して，対人接触の少ない職場を探してもらうように同行する。
- 5 地域障害者職業センターで就職に向けての相談，職業能力等の評価，就職前の支援を行う。

問題 123 Jさん（27歳，女性）は，統合失調症で精神科に通院中で，相談支援事業所の精神保健福祉士に日常生活の相談を定期的に行っている。Jさんの病状には波があり，一つのことが気になりだすと，被害的他罰的な感情が次々とあふれ話がまとまらないことがしばしばである。ある日の面接でJさんは緊張が高い様子で，同居する家族から仕事をしないなら家から出て行くようにと言われたと話し，自分が病気になったことの辛さと家族に対する怒り，また将来を悲観する話を延々と話した。精神保健福祉士は受容的に聞いていたところ，Jさんはふと黙ってしまった。

次の記述のうち，精神保健福祉士が面接を効果的に行う方法として，適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Jさんの緊張を和らげるよう，常に視線を外すように心がけた。
- 2 Jさんは混乱しているようなので，被害妄想が出ていることを伝えた。
- 3 Jさんの今の気持ちにふれるとさらに混乱を増すので，事実の確認に徹した。
- 4 Jさんが黙ってしまったときには，その空間を共有した。
- 5 Jさんの話がまとまらないため，話を要約して終了した。

問題 124 チーム医療に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 チームは、患者の目標に応じて、または回復の段階に応じて構成され、クリティカルパスの積極的な導入も行われる。
- 2 急性期の患者が治療を受ける病棟でも、精神保健福祉士は退院後を視野に入れた環境調整、家族調整等を同時進行で進める必要がある。
- 3 デイケアは施設基準により多職種で構成されることが決められているため、医療専門職のみがチームを組んで、療養支援及び生活支援を含めたりハビリテーションを行っている。
- 4 精神科医療機関において実施されるアウトリーチでは精神保健福祉士はチームに所属するが、作業療法士や臨床心理技術者はアウトリーチチームには属さない。
- 5 ピアサポーターを含めた多職種チームによるアウトリーチの必要性や効果が実証されているが、アウトリーチの活用事業についてはまだ予算化されていない。

問題 125 家族心理教育プログラムに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 家族が対象であり、対象者は、配偶者、親、兄弟、姉妹、子どもに限られる。
- 2 教育的対応が必要なため、決められたパッケージプログラムを提供する。
- 3 精神障害者に対する家族のこれまでの対応を反省することから始める。
- 4 プログラムは主に家族が医療機関に出向いて行われる。
- 5 家族同士の交流はプログラムの効果を高める。

問題 126 精神保健福祉領域におけるスーパービジョンに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士法では「認定スーパーバイザー」によるスーパービジョンを受けることが義務づけられている。
- 2 ライブ・スーパービジョンでは、精神保健福祉士とクライアントの援助場面にスーパーバイザーが同席し、直接助言等を行う。
- 3 スーパービジョンを実施しても、バーンアウトや離職の防止は期待できない。
- 4 ピア・スーパービジョンとは、ピアスタッフ（当事者スタッフ）同士のスーパービジョンのことである。
- 5 精神保健福祉援助実習における実習担当教員の指導は、スーパービジョンに該当しない。

問題 127 医療機関で実施されているさまざまな療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 SSTでのモデリングを行う際のモデル役は、必ずコリーダーに担ってもらう。
- 2 精神科作業療法は、診療報酬においては入院患者のみを対象としている。
- 3 精神科デイケアにおいては、当事者主体なのでスタッフ主導のプログラムは行わない。
- 4 家族心理教育は対処能力の向上のみを目的に行われる。
- 5 IPSは、福祉的就労よりも一般就労を目指す取組みである。

問題 128 Kさん（52歳，男性）は頻回の入退院を繰り返してきたが，今回は地域での可能な限りの支援を目指すため，精神保健福祉士がKさんのアセスメントを行い，個人や地域に関する情報収集や課題分析によりニーズを明確にし，その充足に向けて社会資源を検討することにした。Kさんは単身で身寄りがなく，これまでも退院後は服薬管理ができず再発につながるが多かったが，さまざまな機関が支援することで，地域生活を継続させていくことを目指した。

次の記述のうち，精神保健福祉士が用いる援助技術として，適切なものを2つ選びなさい。

- 1 クライエントの病理や障害を中心に現在困っていることに焦点をあて情報を収集する。
- 2 国際生活機能分類（ICF）モデルに基づいてクライエントとクライエントを取り巻く環境に関する情報を収集する。
- 3 クライエントから得られた顕在化されたニーズに焦点をあて，今ここでの解決していく課題にしぼって明確化する。
- 4 課題分析では，家族構成図としてエコマップや社会資源関係図のジェノグラムを作成するマッピング技法を活用する。
- 5 地域に関する情報収集では，地域住民が主体的に課題解決ができるように，アクションリサーチなどの手法を活用する。

問題 129 「障害者ケアガイドライン」(2002年(平成14年)3月厚生労働省)に基づくケア計画の作成に関する次の記述のうち、**適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 ケア計画は、本人のニーズを現実の社会資源に適合するように修正して作成される。
- 2 長期目標は、非現実的なものであっても本人の希望を重視する。
- 3 短期目標は、既存の社会資源を組み立てて提示するものである。
- 4 ケア計画作成会議は、障害者ケアマネジメント従事者が決定した計画を提示する場である。
- 5 ケア計画実施段階では、それぞれの専門職が個別で支援を完結させる。

問題 130 社会資源に関する次の記述のうち、**適切なものを2つ**選びなさい。

- 1 「情報」は社会資源ではない。
- 2 「自宅で飼っているペット」は社会資源となる。
- 3 「金銭」は社会資源ではない。
- 4 個人のニーズは終始一貫するわけではない。
- 5 精神保健福祉士は所属機関内で地域のニーズを把握することが必要である。

問題 131 「障害者総合支援法」に基づく地域移行支援・地域定着支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 都道府県障害福祉計画では、入院期間が1年以上である長期在院者数の削減目標値を設定することが適当であるとされる。
- 2 市町村が、一般相談支援事業者の指定を行うこととなっている。
- 3 協議会では、地域移行・地域定着に関する地域相談支援の支給決定を行う。
- 4 基幹相談支援センターは、地域移行支援・地域定着支援におけるサービスの実務を担う。
- 5 地域移行支援・地域定着支援に関するサービス等利用計画の作成は一般相談支援事業者が担う。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題132から問題134までについて答えなさい。

〔事 例〕

Aさん(61歳、男性)は3年前に早期退職してからは、これまでの仕事一筋の生活とは打って変わってのんびりとした日々を過ごしていた。特にこれまでできなかった旅行や家族との団らんに時間を使うようにしていた。Aさんの妻は60歳の専業主婦で、子どもは31歳(長男)と28歳(長女)でそれぞれ家庭をもっており、顔を合わせるのは盆と正月の孫を連れての帰省のみである。

Aさんは1か月前に妻と買い物にいった際に、買ったものをその場に忘れてきたり、妻との約束の場所や時間を忘れて先に帰ってしまうということがあった。また別の日に1人で出かけた際には、車を止めた場所がわからなくなったり、電話をかけられなくなったり、自分がどこにいるのか、どうやってそこに来たのかを忘れてしまい、警察から連絡があった。心配した妻がAさんを連れて総合病院を受診した結果、Aさんはアルツハイマー病と診断され、病院に併設する医療相談室のB精神保健福祉士を紹介された。(問題132)

診断を受けてから1年が経過した頃から、Aさんの物忘れが次第にひどくなり、会話もうまくできなくなり、これまでの生活が一変した。妻は、夫の病気のためこの先どうなるのかの不安に加えて、自分1人でAさんの世話をすることへの不安や、近隣へどのように説明してよいのかわからず途方に暮れていた。これからAさんの生活をどのように支援していくかについて、妻はB精神保健福祉士と相談した。(問題133)

1年が経過した頃、妻は献身的な日々の介護のためその介護疲れが蓄積し、また段々と様子が変わっていくAさんを目の当たりにして精神的な打撃は大きく、最近はおうつ傾向になり、介護も思うようにできなくなってきた。長女はできる限り実家に立ち寄って、母親と交代でAさんの介護をするようにしているが、子どもがまだ幼いため頻繁には来ることができない状態である。また妻はAさんの発症後から近所との付き合いが少なくなり、家でもほとんどAさんと2人きりで付きっきりの状態であることをB精神保健福祉士に相談した。(問題134)

問題 132 次の記述のうち、Aさんの認知症との診断直後に行われたB精神保健福祉士の妻への面接の内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アルツハイマー型認知症と血管性認知症との違いについて、医学的な説明に加えて福祉的な見方についての説明を行う。
- 2 妻に対して今後何をすればいいのか積極的に指示し、生活に役立つ制度の手続きをすぐに行うように促す。
- 3 妻が主治医から聞いた話についてその内容を確認し、間違った理解があればしっかりと訂正をする。
- 4 妻の不安を聞いてもらえるよう、同じ病気になった人の家族のための家族会をすぐに紹介する。
- 5 妻の気持ちをしっかりと聞き、わかりやすい言葉で質問を工夫しながら不安な思いや心配なことなどを受け止める。

問題 133 次のうち、この時点でAさんが活用できる社会資源として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 地域包括支援センターの利用
- 2 地域活動支援センターの利用
- 3 地域生活定着支援センターの利用
- 4 保護司への相談
- 5 メンタルフレンドの利用

問題 134 次のうち、この時点でのAさんの妻に対する支援について、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 認知症サポーターの利用
- 2 キャラバン・メイトの利用
- 3 成年後見制度の利用
- 4 認知症カフェの利用
- 5 救護施設の利用

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題135から問題137までについて答えなさい。

〔事 例〕

Cさん(36歳、男性)は大学卒業後、プログラマーとして勤務していたが、日々の残業で心身ともに参ってしまい、3年で退職した。数年後「ある宗教団体に追いかけている」などと奇異なことを話すようになり、母に連れられ精神科病院を受診し、統合失調症と診断され定期的な通院を始めた。30歳代前半になり、母親が高齢者施設に入所してからは単身生活となり、この頃より通院が不定期となる。その後、自宅にひきこもるようになり、一方で母親の施設に対して「兄が母を病気にしている」「母に会わせろ」などといった暴言や押しかけるなどの迷惑行動がひどく、兄から入院の希望があった。保健所等もかかわり、通院していた精神科病院に兄の同意で医療保護入院となった。(問題135)

入院後、数か月で症状もだいぶ落ち着いてきていたため、退院の話があがったが、キーパーソンである兄は、「見守りのある環境でないと心配だ」と話し、グループホームへの退院を希望した。しかし、Cさんは共同生活に抵抗があり、単身で生活することを希望した。そこで、Cさん、兄、主治医、担当看護師、精神保健福祉士にて話し合いの機会がもたれた。(問題136)

さまざまなサービスを組み合わせたうえで、アパートへの退院を目指すこととなった。サービスを紹介するなど、退院支援を進めるにあたり、地域移行支援の利用を家族、本人へ提案し了解が得られたため、申請し利用開始となった。

支援員とともに、退院を検討している地域の通所施設を見学し、その施設に何度か通うといったことを行い、擬似的な退院後の生活をイメージできるような体験を数回繰り返した。

退院先は確保できたが、金銭管理及び服薬管理の2点が課題として残っていた。Cさん、兄、主治医、支援員、担当看護師、通所予定の施設職員、福祉事務所担当ケースワーカー等を交えケア会議を行い、上記について検討した。(問題137)

Cさんは服薬管理や金銭管理についての課題をクリアした後、半年ほどでアパートへ退院となった。

問題 135 次の記述のうち、この時期の**C**さんに対するリハビリテーション計画の立案として、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 入院直後の要安静期から作業療法を導入する。
- 2 急性期治療が優先されるので、この時期にリハビリテーション計画の立案の必要はない。
- 3 1週間から2週間の絶対臥褥期間を過ごす。
- 4 退院後の導入を視野に入れ、精神科デイケアへの日中通所を検討する。
- 5 **C**さんの生活背景や病状の程度、家族関係、さらには利用可能な社会資源などの情報収集を行う。

問題 136 次の記述のうち、このときのケア会議で提案された計画として、**適切なものを2つ**選びなさい。

- 1 グループホーム入所に向けて、見学を行う計画を立てる。
- 2 精神医療審査会へ退院請求を行う。
- 3 金銭管理や食生活など一人暮らしに向けた社会生活力向上のリハビリテーションプログラムへの参加を検討する。
- 4 就労に向けて地域障害者職業センターの利用を検討する。
- 5 本人が希望しているアパート単身生活を検討する。

問題 137 次のうち、金銭管理に課題のある**C**さんが利用するサービスとして、**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 日常生活自立支援事業
- 2 居宅介護（ホームヘルプ）
- 3 精神科訪問看護
- 4 行動援護
- 5 地域若者サポートステーション

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題138から問題140までについて答えなさい。

[事 例]

会社員のDさん(48歳, 男性)は, 大学卒業後, 営業職として就職した。就職後は真面目な勤務態度や能力が評価され, 上司や同僚からの評価も高かった。もともと酒が好きで仕事帰りに飲酒することが多かったが, 35歳頃, 中間管理職になった頃から若手社員が自分の指示どおりに動かないストレスや, 仕事の悩みを誰にも打ち明けられない辛さを紛らわそうとして飲酒量が増えた。

その後, 飲酒による無断欠勤や取引先とのトラブル, 泥酔して公園のベンチで寝るなどの行動がみられたため, 妻や上司の勧めでQ精神科病院を外来受診したところ, アルコール依存症と診断された。入院を勧められ, 本人はまだ半信半疑であったが, 妻と上司の強い説得の末, 即日入院となった。(問題138)

入院時, 主治医や担当のE精神保健福祉士からアルコール依存症者の自助グループへの参加を勧められたが, Dさんは「必ず自分の力で酒をやめます」と頑なに拒み, 3か月の入院期間を経て退院, 職場に復帰した。

しかし, 退院した3日後から飲酒を再開し連続飲酒状態となったため, 今回は自分の足でQ精神科病院へ向かい, 入院治療を求めた。2回目の入院時から, E精神保健福祉士が勧める断酒会の例会に参加した。(問題139)

参加当初はメンバーの体験談も同じ話の繰り返しのよう to 思え, つまらなく感じていたが, 次第に自分が起こした失敗やたどってきた経過と非常に似ていることに驚き, 同じ問題を抱える仲間がいることに安心感を抱くようになった。Q精神科病院を退院した後は継続して断酒会に参加しており, 現在まで再飲酒することなく安定した生活を送っている。Dさんは今, 断酒会のなかではアドバイザーとしての役割を担うようになり, 新入会員の相談に乗る一方で, 保健所からの依頼で, 酒害相談員としてアルコール依存症の回復者の視点から来談した家族等の相談にも応じている。(問題140)

問題 138 次のうち、この時点にとられたと考えられる入院形態として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 措置入院
- 2 緊急措置入院
- 3 医療保護入院
- 4 任意入院
- 5 応急入院

問題 139 次の記述のうち、アルコール依存症者の自助グループについて適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自助グループはアルコール依存症者の回復に効果があるため、強制的に参加してもらうことが望ましい。
- 2 グループ内でトラブルが生じた場合も、メンバーの自主性や立場を尊重するために精神保健福祉士は一切関与すべきではない。
- 3 精神保健福祉士は自助グループの運営に積極的にかかわり、グループをリードする役割が求められている。
- 4 メンバーと精神保健福祉士の関係は対等であるので、グループのなかでの役割についても分担し、どちらかに負担がかからないよう配慮しなければならない。
- 5 アルコール依存症の当事者が中心であるので、精神保健福祉士はグループを側面的に援助することに徹する。

問題 140 次の記述のうち、Dさんがアルコール依存症から回復するのに役立ったと考えられるものとして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 一度は自分の力だけで断酒しようと努力したこと。
- 2 同じ経験をもつ仲間と出会うことができたこと。
- 3 元来、仕事の悩みを誰にも打ち明けず、自己解決しようとする我慢強さを持ち合わせていたこと。
- 4 Dさんが二度にわたる入院をしたが、職場を解雇されなかったこと。
- 5 現在、アルコール依存症で苦しんでいる人をサポートすることができたこと。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題141から問題143までについて答えなさい。

〔事 例〕

Fさん(23歳, 男性)は, 高校卒業と同時に大学の法学部へ進学したが, 大学では友人や教員とのトラブルが絶えなかった。それについて, Fさん自身は「自分は, 正直な意見を言っているのに, 周りの人たちは自分の話を理解してくれない。だけど, こういうことは, よくあることだろう」と考え, 人間関係に苦痛は感じていなかった。しかし大学3年時に, ゼミの教授と大喧嘩をし, その日のうちに大学を退学した。そしてFさんは, 「何か資格があれば仕事に困らないし, 周りの人たちも自分を専門家と認めて, 意見を聞き入れてくれるに違いない」と考えるようになり, 「求人数が多いらしい」という理由で, 看護学校へ入学した。しかし, そこでも人間関係は大学と同様で, 入学半年後には, 教員から「他の人と会話をするときには, 相手の行動をよく見て, 言葉の意味を考えましょう」と伝えられた。Fさんは, 「先生なのに, 自分を悪者にするのか!」と激怒し, すぐに退学の手続きをとった。

そして, ハローワークへ出向いてみた。入口で, 「心の不調に関する相談窓口があります」と書かれたポスターがFさんの目にとまり, 「何だかイライラしている。これは心の不調かな」と感じ, 相談を依頼した。

精神障害者雇用トータルサポーターで精神保健福祉士であるGサポーターは, Fさんのこれまでの経緯を聞き, 「発達障害かもしれない」と感じた。(問題141)

GサポーターはFさんに, 小学校時代の様子を聞いてみた。するとFさんは, 「成績は普通だったけど, 同級生や先生の話すことは意味がわからなかったので, 友達は何人もいなかった」と話した。そこでGサポーターは, まず, 就労支援として, Fさんと何回か面接を行うことが必要と考えた。(問題142)

Gサポーターは面接のなかでFさんの人間関係のエピソードを確認, それがFさんの社会生活に影響を及ぼした可能性があることをFさん自身が理解できるよう, 丁寧な話し合いを行った。そして, Fさんの将来の希望を聞き, 「これから人間関係で困らないようにするために, 就労に向けたコミュニケーションのトレーニングを受けてみてはいかがでしょうか?」と提案すると, Fさんは同意した。(問題143)

問題 141 次の記述のうち、発達障害が疑われるFさんについて、その障害特性に関係がある出来事として、**あてはまるものを2つ**選びなさい。

- 1 Fさんが、法学部を退学して、専門性が全く異なる看護学校へ入学したこと。
- 2 Fさんが、「求人数が多らしい」という理由で看護学校へ入学したこと。
- 3 Fさんが、人間関係でトラブルを多発しているにもかかわらず、そのことに困っていないこと。
- 4 Fさんが、資格があれば仕事に困らないと考えたこと。
- 5 Fさんが、短い年月の間に、人間関係のトラブルが原因の退学を繰り返していること。

問題 142 次の記述のうち、Gサポーターが「まず、就労支援として、何回か面接を行うことが必要」と考えた理由について、**適切なものを2つ**選びなさい。

- 1 Fさんと信頼関係を形成するために、ある程度の期間が必要と考えたため。
- 2 Fさんが「同級生や先生の話すことは意味がわからなかった」と言ったため、説明に時間がかかると考えたため。
- 3 Fさんが「友達は何人もいなかった」と言ったため、まず、Gサポーターと「友達づきあい」を経験することが必要と考えたため。
- 4 Fさんが、自分の課題を理解するためには、丁寧に段階を経る必要があると考えたため。
- 5 Fさんの診断名について、慎重に判断する必要があると考えたため。

問題 143 次のうち，**G**サポーターが提案した「就労に向けたコミュニケーションのトレーニング」について，現在の**F**さん（精神障害者保健福祉手帳は所持していない）が利用することが有効な社会資源として，**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 地域障害者職業センター
- 2 障害者職業能力開発校
- 3 就労継続支援（A型・B型）
- 4 教育訓練給付金
- 5 障害者を雇用する特例子会社

精神保健福祉に関する制度とサービス

問題 144 「精神保健福祉法」における入院制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 任意入院では、いかなる場合も退院制限を行うことはできない。
- 2 都道府県知事による、改善命令等を受けた精神科病院に対する任意入院患者の定期病状報告の制度を設けている。
- 3 措置入院にあたって、精神科病院の管理者は、市町村長を経て措置入院者の病状に関する報告を都道府県知事に行うこととされている。
- 4 応急入院の対象には、家族等の同意が得られない者は含まれていない。
- 5 医療保護入院において、当該精神障害者の居住地を管轄する市町村長の同意による入院の制度は廃止されている。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 145 「精神保健福祉法」に定められる退院後生活環境相談員に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 退院後生活環境相談員1人につき、配置の目安は60人以下の医療保護入院者を担当することとされている。
- 2 地域資源の情報を把握し、収集した情報を整理するよう努めなければならない。
- 3 退院後生活環境相談員は、当該医療保護入院者の入院から5日以内に選任されている。
- 4 退院後生活環境相談員となる者の資格には、介護福祉士も含まれている。
- 5 医療保護入院者及びその家族と相談を行った場合、その相談内容を、相談記録や看護記録等に記録しておく必要はない。

問題 146 Jさん（42歳，男性）は，妻と5歳の娘，2歳の息子との4人暮らしである。Jさんは交通事故による頭部外傷により高次脳機能障害と診断された。Jさんは疲れやすくなったうえ，新しい出来事を記憶することや順序立てて行動することが困難になった。Jさんは会社を辞め，妻の支援を受けながら自宅療養を続けていたが，次第に自分の障害状態や今後の生活について不安を感じるようになった。Jさんは妻とともに保健所を訪れ，利用できる福祉サービスがないか相談することにした。保健所のH精神保健福祉士は，Jさんが利用できる可能性のある制度について説明した。

次の記述のうち，保健所のH精神保健福祉士がJさんと妻に説明した高次脳機能障害の支援施策として，正しいものを2つ選びなさい。

- 1 国立障害者リハビリテーションセンター内に設置された高次脳機能障害情報・支援センターでは，高次脳機能障害支援に関する情報をホームページで発信している。
- 2 高次脳機能障害によって精神障害者保健福祉手帳を申請する場合，交付決定業務は精神保健福祉センターで行う。
- 3 高次脳機能障害は，「障害者総合支援法」の介護給付や訓練等給付の対象とならないため，インフォーマルな社会資源が担う役割は大きい。
- 4 市町村は，専門性の高い相談支援事業として，高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業を行わなければならない。
- 5 高次脳機能障害は障害年金の対象とならないため，地方自治体が独自に実施している経済的支援制度を利用する。

（注） 「障害者総合支援法」とは，「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 147 発達障害者支援センターに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 発達障害者支援センターは、「障害者総合支援法」に基づき都道府県・指定都市に設置されている。
- 2 発達障害児とその家族に対する支援は、発達障害者支援センターではなく児童発達支援センターで行う。
- 3 発達障害者支援センターでは、発達障害者に対し、専門的な発達支援とともに就労の支援を行う。
- 4 発達障害者支援センターの支援対象には、注意欠陥多動性障害は含まれない。
- 5 発達障害者支援センターの運営は、委託ではなく地方公共団体が自ら行わなければならない。

問題 148 就労継続支援B型事業所に勤務するA精神保健福祉士のもとに、Bさん（42歳、女性）の母親が相談に訪れた。Bさんの母親（70歳）は自分が死亡した後のBさんの経済状況を心配しており、離婚した夫とは20年以上音信不通で、Bさんには母親のほかに頼りにできる親戚もいないこと、Bさんには障害基礎年金（2級）と月に3万円程度の就労継続支援B型事業所からの収入があるがそれだけで生活できるのか心配なこと、自分の死後に備えてできるだけ預貯金していることを苦しそうに語った。A精神保健福祉士は、Bさんの母親の不安を受け止めたうえで、精神障害者に対する経済的支援制度について説明を行った。

次の記述のうち、A精神保健福祉士がBさんの母親に説明した経済的支援制度について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 Bさんが障害基礎年金を辞退しなければ生活保護の申請ができないことを説明した。
- 2 母親の死亡後は、障害基礎年金に併せて特別障害給付金も利用できることを説明した。
- 3 心身障害者扶養共済制度の申請方法について説明した。
- 4 Bさんは、Bさんの母親が残した預貯金を活用した後でなければ生活保護の対象とならないことを説明した。
- 5 親が子である障害児者に残す預貯金については、相続税の対象にならないことを説明した。

問題 149 Cさん（67歳，男性）は精神科病棟に入院中である。あるとき，主治医よりCさんの社会復帰の支援に関して，病棟担当のD精神保健福祉士に依頼が入った。Cさんは今回の入院中に両親が他界してしまい，全く身寄りのない状態であるが，院内での生活はほぼ自立できており，精神症状も落ち着いている。ただし金銭管理はおぼつかない面があり，2週間ごとに渡されるこづかいを早々に使い込んでしまい，結果他の患者に借金をしたことが複数回ある。Cさん自身に話を聞いても，2か月分がまとめて支給される年金を自己管理して計画的に使っていく生活のイメージがわからないと不安をもらしていた。D精神保健福祉士はCさんの社会復帰には日常生活における金銭管理の問題への取組みが必要であると感じた。

次のうち，Cさんの社会復帰の支援を行うD精神保健福祉士が，支援協力を求める可能性の最も高い専門職として，適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉センターの精神保健福祉相談員
- 2 福祉事務所の現業員
- 3 日常生活自立支援事業を担当する専門員
- 4 社会復帰調整官
- 5 福祉活動専門員

問題 150 「医療観察法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「医療観察法」の対象となる者は、刑法に規定されている、殺人、強盗、放火、強姦、強制わいせつ、傷害にあたる行為をした者すべてである。
- 2 「医療観察法」における審判とは、「疾病性」「治療反応性」という二つの評価軸と時間軸を組み合わせて医療の必要性を判断することである。
- 3 指定入院医療機関からの退院は、入院期間中に開催される治療評価会議の結果をもって指定入院医療機関の管理者が決定する。
- 4 通院医療の期間は原則3年間であるが、通院医療の継続が必要とされる場合は、指定通院医療機関の管理者が通院医療の期間の延長を地方裁判所に申し立てる。
- 5 「医療観察法」の通院医療の期間であっても、一般の精神科病院に「精神保健福祉法」における任意入院をすることは可能である。

(注) 「医療観察法」とは「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 151 「医療観察法」における精神保健参与員に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 通院医療を受ける対象者について、本人や家族、保護観察所、関係機関との協議のうえ処遇実施計画を作成する。
- 2 検察官から申立てを受けた地方裁判所は、対象者の処遇を決定するために、裁判官と精神保健審判員、精神保健参与員各1名で合議体を構成する。
- 3 審判においては、対象者の社会復帰について、社会福祉、精神保健福祉及び権利擁護の視点から意見を述べる。
- 4 対象者の指定入院医療機関での入院医療の期間に、対象者の治療や入院中の生活状況を見守る精神保健観察を行う。
- 5 精神保健福祉士として相談援助業務に5年以上従事した者で研修会を受講した者が、1年ごとに地方裁判所から選任される。

問題 152 社会調査に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 量的調査の場合、調査協力者の匿名性が担保されるので、調査協力者に対して、調査目的や意義などを事前に説明する必要はない。
- 2 エスノグラフィーは参加観察法の一つである。
- 3 順位尺度とは、回答カテゴリー間に大小や高低などの順位性があり、回答カテゴリー間の間隔も等間隔な尺度のことである。
- 4 コーホート調査とは、横断調査の一つであり、時間経過に伴う特定された集団の変化を把握するものである。
- 5 ある福祉サービスを利用したことによって生じた調査対象者の変化を明らかにする場合、「ある福祉サービス」が独立変数、調査対象者の「ニーズ充足度」「自立度」などが従属変数となる。

(精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題153から問題155までについて答えなさい。

〔事 例〕

Eさん(27歳、男性)は、大学卒業後、単身生活をしながら会社員として働いていた。残業が続いたある日の帰宅中、最寄り駅で電車を降りたとき、Eさんを叱責する上司の声が聞こえたような気がしたため振り返り、目の前にいた見知らぬ男性を殴ってしまい、男性に全治2週間のけがを負わせた。周囲の人が警察に通報し、駆けつけた警察官にEさんは現行犯逮捕された。Eさんは保護観察付き執行猶予判決を受け、同じ市内にある実家に帰り両親と同居することにした。

実家に戻ったEさんは自室に閉じこもるようになった。自室に閉じこもるEさんを心配した両親は、1年ほど経ったある日、近所の精神科診療所にEさんを受診させようと思った。話をするためにEさんの部屋に両親が入ったところ、Eさんは突然大声でどなり父親を殴った後、警察に通報しようとした母親にも背後から殴りかかった。母親からの通報で駆けつけた警察官にEさんは現行犯逮捕された。警察の取り調べを踏まえ、Eさんは事件発生当時、心神喪失の状態にあったとして、検察官は不起訴処分とし、地方裁判所に「医療観察法」による申立てを行った。地方裁判所はEさんの鑑定入院命令を発し、保護観察所にある職務を行うよう求めた。(問題153)

鑑定入院の結果や保護観察所が行った職務などを踏まえた審判の結果、地方裁判所はEさんに対して「医療観察法の入院による医療」を言い渡した。

指定入院医療機関での入院医療の開始から1か月ほどしたある日、Eさんの退院後についての話し合いのため、EさんやEさんの両親に加えて、医療機関の担当職員や保護観察所の社会復帰調整官などが参加したある会議が開催された。(問題154)

この会議はその後も定期的に開催された。ある日の会議で、Eさんは「仕事をしたい」と希望を話した。退院して、入院によらない医療を受ける期間になった場合は、両親の協力を得ながら実家で両親と同居し、日中は自宅から徒歩で通える指定障害福祉サービス事業所の就労移行支援の利用を検討することになった。また経済的な負担も軽減できることから、精神障害者保健福祉手帳の申請の受付を担当する機関の職員に次回の会議で参加してもらうこととなった。(問題155)

問題 153 次のうち、この時点で保護観察所が果たす役割として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 審判への準備
- 2 生活環境の調査
- 3 生活環境の調整
- 4 地域の関係機関との連携
- 5 保護司の選定

問題 154 次の記述のうち、この時点での会議の内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 EさんとEさんの両親から今後についての希望を話してもらう。
- 2 Eさんに治療の必要性についての理解を深めてもらう。
- 3 Eさんの外泊計画を調整する。
- 4 Eさんの退院後の通院先である指定医療通院機関を確定する。
- 5 Eさんに地域の社会復帰施設を紹介する。

問題 155 次のうち、次回の会議に参加する職員の所属する機関として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 地域生活定着支援センター
- 2 地域活動支援センター
- 3 保健所
- 4 市役所
- 5 精神保健福祉センター

精神障害者の生活支援システム

問題 156 障害の概念及び精神障害者の特性に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 国際生活機能分類（ICF）では、その対象を障害者と呼ばれる人々に限定し、生活にかかわるすべての機能を包括的に扱っている。
- 2 国際生活機能分類（ICF）では、人間の生活機能と障害について、「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3次元と、それらの背景因子となる「健康因子」「個人因子」から構成される。
- 3 精神障害者の社会復帰及び社会参加を考えると、強さや長所を有する可能性がある人としてみるストレングスモデルでとらえることが重要である。
- 4 精神障害者の特性として、疾患と障害の併存があげられるが、前者は幻覚・妄想などの陽性症状であり、後者はひきこもりなどの生活障害がある。
- 5 精神障害の仲間同士の交流や社会生活技能訓練（SST）を行うことで、日々の生活の対処能力を高めることにつながる。

問題 157 「平成26年版障害者白書」（内閣府）における精神障害者の現状に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 2011年度（平成23年度）国民医療費による精神科医療費の内訳では、入院外費用が入院費用を上回っている。
- 2 人口千人当たりの精神障害者の数は、身体障害者や知的障害者の数を上回っている。
- 3 外来の精神障害者の年齢階層別の内訳では、65歳以上は4割を超えている。
- 4 精神障害者保健福祉手帳の所持者は65歳未満の男性では20万人以上を超えている。
- 5 2013年度（平成25年度）のハローワークを通じた障害者の就職件数は、精神障害者の件数が増加しているものの、身体障害者の就職件数には及ばない。

問題 158 居住支援制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「住宅入居等支援事業（居住サポート事業）」は市町村地域生活支援事業の一つであり、2013年（平成25年）4月時点で、全国の市町村のうち、約40%の市町村が実施している。
- 2 共同生活援助（グループホーム）の入居者は、介護サービスを利用できない。
- 3 公営住宅法では、「障害者総合支援法」に規定する共同生活援助を行う事業、老人福祉法に規定する認知症対応型老人共同生活援助事業などを運営する社会福祉法人等による公営住宅の使用が認められている。
- 4 精神障害者を対象としたグループホームは、1988年（昭和63年）の精神保健法施行時に初めて法定化された。
- 5 共同生活援助（グループホーム）は、2014年（平成26年）4月からの共同生活介護（ケアホーム）との一元化を受け、対象が障害支援区分1以上の者とされている。

（注） 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 159 行政機関の業務に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉センターには精神保健福祉相談員が任意必置であったが、2013年（平成25年）の「精神保健福祉法」の一部改正により、必置義務に変更となった。
- 2 市町村長は精神保健指定医の診察の結果、緊急に入院を必要とするにもかかわらず、本人の同意が得られない場合、家族等の同意を取って応急入院指定病院に移送することができる。
- 3 「障害者総合支援法」に規定する障害福祉サービス、社会福祉法に規定される日常生活自立支援事業の利用相談、申請は市町村である。
- 4 精神保健福祉センターは、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。
- 5 自殺防止対策は、市町村の精神保健福祉相談員が中心となって担っている。

(注) 1 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神保健福祉に関する法律」のことである。

2 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 160 相談者 F さん（45歳，女性）は，隣町に住む母と弟のことで保健所に相談に来た。母は76歳で，最近認知症の症状が出てきている。弟 G さんは40歳で，大手機器メーカーに勤務していたが，2年前にうつ状態に陥り，現在は自宅にこもりっきりの生活が続いている。医療にはかかっていないとのことである。父親は7年前に他界しており，現在は母と弟の二人暮らしである。F さんは時々，二人の様子を見に実家に訪れ，家事などを行っている。母はあまり他人が家に入ることを好まないため，今のところ福祉サービスにつなげられていない。近隣の付き合いはほとんどなく，ほかに頼れる親戚もいないため，F さんは何かあったらどうしようかと心配だという。保健所の精神保健福祉士は，F さんの不安な気持ちを受け止め，利用できそうな制度等について話をした。

次の記述のうち，精神保健福祉士の対応として，適切なものを1つ選びなさい。

- 1 今すぐに介護保険のサービスを導入する必要がある旨を助言する。
- 2 母の認知症疾患について相談するには地域活動支援センターがよい旨を説明する。
- 3 G さんの医療の必要性について助言するとともに，自立支援医療について説明する。
- 4 G さんの病状悪化時については，移送制度を利用して精神科病院に入院させる方法があるので，安心するよう伝える。
- 5 G さんにはグループホームに入居してもらい，現状の問題を解決していくことを助言する。

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題161から問題163までについて答えなさい。

〔事 例〕

Aさん（34歳，男性）は自動車会社に営業職として勤務しているサラリーマンである。元来几帳面で面倒見のよいAさんは，今までの営業成績や人柄を見込まれて主任に抜擢された。Aさんは従来の業務に加え，主任としての管理業務や部下，新人の教育等と徐々に勤務内容や業務量に負担を感じるようになった。特にAさんは新人職員や部下に注意したあとで「もっと他の言い方や伝え方があったのでは」と自分を責めることが多く，その悩みについて上司や同僚に相談することができなかった。

やがてAさんは，不眠や焦燥感，頭痛などの身体症状を感じるようになり，集中力が低下し，会議での報告内容をまとめられない，部下に間違っただけの指示を与えるなどミスが目立つようになり，無断欠席や遅刻も続くようになった。そのようなときにはひどく自己嫌悪に陥り，このまま消えてしまえたらいいという思いも出現するようになった。

見かねた上司のBさんに勧められ，Aさんは精神科病院を受診し，心身の休養のため1か月間入院することになった。同時に精神科の主治医やBさんと相談し，退院後1年間の休職をすることになった。

Aさんは精神科病院への入院や通院を通し，徐々に不眠や焦燥感，集中力の低下など症状が改善したとを感じるようになり，一刻も早く仕事へ復帰したいとの意欲が湧いてきた。また仕事を休むことで，会社や上司，部下に負担をかけているのではと悩むようになった。休職から2か月たち，Aさんは病院の担当のC精神保健福祉士に今後の復職について相談した。（問題161）

前回の相談から6か月が過ぎた頃，Aさんは主治医とC精神保健福祉士に勧められ，R機関が実施している精神障害者総合雇用支援事業を利用することになった。

（問題162）

Aさんは，R機関のD精神保健福祉士と面接を重ね，利用している事業のなかから会社への復職を支援するリワーク支援を受けることになった。（問題163）

問題 161 次の記述のうち、この時点での**C**精神保健福祉士が**A**さんに行う支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 特定求職者雇用開発助成金の利用を勧める。
- 2 精神障害者保健福祉手帳の取得を勧める。
- 3 休職期間は1年間であるので、今はあせらずじっくり休むように助言する。
- 4 精神障害者雇用トータルサポーターを紹介する。
- 5 **A**さんの了解を得て、今後の復職に向けて検討する場を設定する。

問題 162 次の記述のうち、精神障害者総合雇用支援事業を行う**R**機関の役割や業務内容について、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 **R**機関では、就業支援担当者と生活支援担当者が協力して、就業面と生活面の一体的な支援を行う。
- 2 **R**機関では障害者職業訓練コーディネーターを配置して、個々の障害者に対応した職業訓練を実施している。
- 3 **R**機関では、職場適応援助者を事業所に派遣し、精神障害者と事業所の双方に対して、雇用の前後を通じて直接的、専門的な支援を行う。
- 4 **R**機関では、障害者向けの求人を開拓しており、一般求人の障害者求人への転換を事業所にはたらきかける業務を行う。
- 5 **R**機関では、職業能力開発校や医療機関などと連携し、広範囲の地域において、職業リハビリテーションサービスを提供する。

問題 163 次の記述のうち、当面 A さんに行われるリワーク支援について、適切なものを 2 つ選びなさい。

- 1 個人情報があるので、事業所には A さんの病状については極力伝えない。
- 2 A さんの症状の再燃を軽減するためアサーション・トレーニングを行う。
- 3 A さんのこれまでの業務量や職務内容、当面の出勤のペースなどを分析して、本人や事業所に助言を行う。
- 4 作業を中心とした部署への A さんの異動を目的にして、新しい部署での作業に慣れるために、作業能力の向上を課題にする。
- 5 A さんに障害者試行雇用（トライアル雇用）を実施することを提案する。